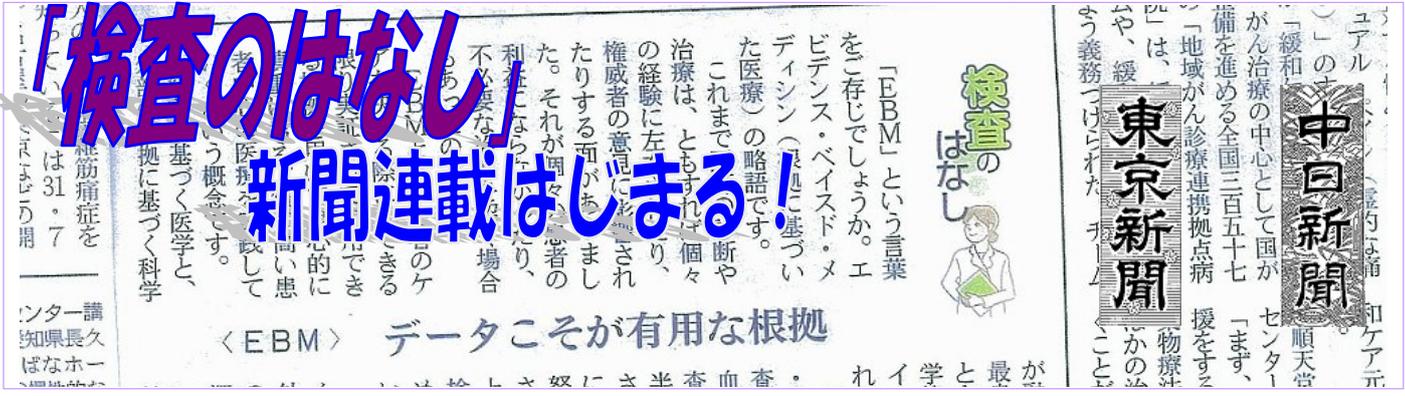


会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 蒲池正次、小郷正剛、下田勝二、
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、
 高田秋也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ http://www.jamt.or.jp



毎週金曜日朝刊に連載

去る 11 月 7 日 (金) より、中日新聞・東京新聞に「検査のはなし」の連載がはじまりました。

これは、中日新聞社からの依頼によるもので「検査」の前は「くすりの話」が薬剤師(会)の協力で連載されていたものです。

これから 1 年間にわたり連載されます。今のところ、55 週を予定しており、毎週金曜日の朝刊へ掲載されます。同時に日臨技ホームページ、会報 JAMT への掲載も予定しております。皆様のご意見、ご要望をお待ちします。以下に、11 月に掲載された「検査のはなし」を載せます。

第 1 回 <EBM> データこそが有用な根拠

11 月 7 日掲載

「EBM」という言葉をご存じでしょうか。エビデンス・ベースド・メディシン(根拠に基づいた医療)の略語です。これまで医師の診断や治療は、ともすれば個々の経験に左右されたり、権威者の意見に影響されたりする面がありました。それが個々の患者の利益にならなかったり、不必要な治療を招く場合もあったのです。

EBMとは、患者さんのケアを決める際に、できる限り実証されて実用できる根拠を用い、良心的に慎重に考え、質の高い、患者中心の医療を実践していくという概念です。

経験に基づく医学と、外部の根拠に基づく科学が融合したとき初めて、最良の医療が提供できるとされています。

す。少し哲学的ですが「アートとサイエンスの融合」と呼ばれることもあります。

肝機能、腎機能、脂質・貧血、血糖など検体検査(人の体から得られた血液、尿などを使う検査)のデータは、その大半が客観的な数値で表現されます。そして、長年にわたる臨床検査技師の努力によって検査の正確さ、精密さも飛躍的に向上しました。つまり臨床検査データこそがきわめて有用なエビデンスといえるのです。

この連載では、患者さんに身近でありながら意外と知られていない検査の世界について、知識を深めていただければと思います。

第 2 回 健診と検診

11 月 14 日掲載

医療機関での診断や治療に臨床検査データが必要不可欠なのは言うまでもありませんが、健診や検診においても臨床検査は重要です。

ところで「健診」と「検診」の違いをご存知でしょうか? 読み方は同じですが、健診は健康診断・健康診査のことを意味し、健康であるかどうかを調べるものです。それに対し、検診は特定の疾患を早期に発見し、早期に治療することを目的とした検査診断・検査診察を指します。

少し古いデータですが、二〇〇二年度の群馬県での基本健診とがん検診の受診率に興味深い事実があります。

この年の基本健診の受診率は 63・4% だったのですが、これに対しがん検診は、胃がんが 17・5%、大腸がん 19・9%、子宮がん 20・1%、乳がん 21・8%、⇒

- P01: 「検査のはなし」新聞連載はじまる-1
- P02: 同-2・ホームページを身近なものに・中部地区短信
- P03: 標準化事業解説<3>-1
- P04: 同-2
- P05: 同-3
- P06: 関東甲信地区短信・不審電話にご注意
- P07: 消費生活用製品安全法・裁判員制度・JAMT 共済ネット
- P08: 投稿「チーム医療用語の意味するもの」

- P09: 百均の電卓で解ける“統計入門”
- P10: 投稿「廃棄物処理法の以外な盲点」・会費納入について
- P11: ひとくち英会話・災害時救援ボランティア派遣の補償
- P12: UNFPA 国連人口基金「世界人口白書 2008」-1
- P13: 同-2
- P14: 同-3・IFBLS 報告・環境問題対策総合研修会
- P15: 厚生労働省における環境配慮の方針・編集室
- P16: The 3rd Congress of AAMLS in YOKOHAMA